

## 報告文献別一覧表(2006/1/1~2006/3/31)

No.	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	CCDR 2005; 31(19): 197-205	カナダでのA型肝炎ウイルス感染状況。A型肝炎ウイルス暴露前予防、暴露後予防およびアウトブレイク管理、疫学、結論などが記載。
2	A型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(34)	2004年におけるHealth Protection Agency Centre for InfectionsへのA型ウイルス肝炎に関する報告は627例で、2003年と比較して36%減少した。大部分(51%)は15~44才の成人で66%が男性であった。
3	A型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(41)	英国Dorset州において男性と性交渉を持つ男性におけるA型肝炎のアウトブレイクが確認された。
4	A型肝炎	ProMed 20050916-0040	Nizhny Novgorod地域で、A型肝炎患者増加中。ロシア保健局により感染源が特定され、流行を制圧のため市民に、衛生習慣を順守し、飲料水を煮沸消毒するよう勧告した。
5	A型肝炎	ProMed 20051203-0080	2005年9月17日~24日、トルコに旅行して、4人がA型肝炎に感染、10月12日~20日の間に発病。感染源は、リゾート施設内の開放型コンテナのアイスクリームとドライフルーツと考えられ、遺伝子型解析で1B型と確認された。
6	A型肝炎	ProMed 20060111-0066	ニュージーランドChristchurchでA型肝炎流行。生の食物が流行の原因の可能性。
7	A型肝炎	Transfusion 2005; 45: 1037-1038	ドイツのワクチン非接種の血液ドナー2人が、エジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査でHAV感染が確認された。このことより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。今回の事例の感染源は特定されていないが、宿泊したホテルの1つがヨーロッパ人旅行者のHAV感染300例以上の感染源であることが後に判明した。
8	B型肝炎	CDC/MMWR 2005; 54(RR16): 1-23	B型肝炎ウイルス感染症の拡大を阻止するための戦略、更新事項、B型肝炎予防法、予防接種スケジュールとその結果、ワクチンの安全性などについて記載。定期的な幼児および思春期での予防接種が非常に効果的であったことが判明。
9	B型肝炎	CDC/NCID 2005年7月14日 <a href="http://www.cdc.gov/ncidod/diseases/hepatitis/spotlights/glucose.htm">http://www.cdc.gov/ncidod/diseases/hepatitis/spotlights/glucose.htm</a>	糖尿病患者へのケア手順を対象にした具体的な感染管理アドバイス(糖尿病看護手順と技術、手の衛生管理状態と手袋、医学的管理、トレーニングと監督)を掲載。
10	B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日 藤巻ら	移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植を受けた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
11	C型肝炎	Ann Intern Med 2005; 142: 898-902	2000年3月から2001年12月までに米国ネブラスカ州東部のクリニックを訪れた患者で医療行為によるHCV感染疑いを調査した結果。発生はシリンジの再利用によると考えられた。
12	C型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(50)	英国Health Protection Agencyが発行。イングランドにおけるC型肝炎の有病率、サーベイランスと調査、認識の増加、静注薬物使用者(IDUs)に焦点を当てた予防策などが記載。
13	C型肝炎	HPS Weekly Report 2005; 39(2005/49): 267	2005年12月13日、感染した血液製剤に関連したC型肝炎に関する情報が発表された。2005年2月、スコットランド保健相が、血友病協会のスコットランド代表との会議までに資料を作成するよう依頼。情報はScottish Executive Health Departmentへの連絡により入手可能。

No.	感染症(PT)	出典	概要
14	C型肝炎	J Med Virol 2005; 77: 70-76	1997年から2000年の期間で、フランスの血液透析におけるHCV感染発生率の前向き調査の結果。1323名中9名の患者が同じユニットで同じシフト間の透析中に感染患者からHCV感染したことが明らかになった。
15	C型肝炎	Transplantation 2005; 80: 320-325	1992年から2003年で肺移植に当たりHBcAb(+)またはHCV-Ab(+)の移植片を移植された患者の調査をしたところ、HBcAb(+)レシビエント群29名はウイルス性肝炎発症もなく全員が生きているが、HCV-Ab(+)レシビエント群3名は全員からHCV-RNAが検出され、うち1名は22ヶ月で肝不全のため死亡した。肺移植後のHCV-Ab(+)移植片のウイルス感染リスクは高いかもしれない。
16	E型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(45)	英国保健省はWelsh National Public Health Serviceらと共同で、HEV流行地域への旅行に無関係なHEV感染患者の地域的、臨床的、分子疫学的特徴に関する研究を行った。1996年から2003年の間にE型肝炎と血清学的に診断された186例中、外国旅行に関係していない感染者は17例で、全て英国のブタのHEV株、遺伝子型3型に感染していた。本所見からE型肝炎はイングランドおよびウェールズに固有の型であることが示唆された。
17	E型肝炎	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第38週	日本でのE型肝炎発生状況。E型肝炎は輸入感染症と考えられていたが、現在症例の大半が国内感染であり、E型肝炎ウイルスはわが国にも土着していることが示唆。
18	E型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 3042-3048	韓国でヒトから分離したHEVは、ブタのHEVと92.9-99.2%のヌクレオチド相同性があった。また日本株およびUS株とアミノ酸配列で97.9-99.6%の相同性があった。韓国の人口の11.9%は抗HEV IgGを持っていると考えられ、韓国でHEV感染が広がる可能性が示唆された。
19	E型肝炎	ProMed 20050823-0110	東部チャドの村でE型肝炎流行により少なくとも50名が死亡。
20	HIV感染	AABB Weekly Report 2005; 11(42)	2003年1月から2004年6月にかけて中国で41歳の男性が売血をし約18名がHIVに感染、うち3名が死亡した。
21	HIV感染	CDC Media Relations 2005年11月17日 <a href="http://www.cdc.gov/od/oc/media/pressrel/fs051117.htm">http://www.cdc.gov/od/oc/media/pressrel/fs051117.htm</a>	米国33州における2001年~2004年のHIV感染症集計。HIV感染症157252例。CDCは州別、人種別、生活習慣別のHIV感染症の動向を分析。
22	HIV感染	CDC Media Relations 2005年12月1日 <a href="http://www.cdc.gov/od/oc/media/pressrel/r051201.htm">http://www.cdc.gov/od/oc/media/pressrel/r051201.htm</a>	AIDSが流行して25年近くが経ち、米国はHIVに対する戦いにおいて複雑な課題に向き合い続けている。米国のHIV感染者は100万人以上、世界的では約4000万人。米国HIV感染者の1/4は感染に気づいておらず、毎年推定4万人の新規感染が発生。最新のCDC調査により、HIV母子感染の予防は劇的に成功しつつある。
23	HIV感染	CDC/MMWR 2005; 54(RR09): 1-17	HIVの職業的伝播のリスク、暴露後の予防治療に対する抗レトロウイルス剤、抗レトロウイルス剤の毒性および薬物相互作用、抗レトロウイルス剤に対する耐性、米国の病院における職業的HIV暴露管理と暴露後の予防治療の実態、HIV暴露後治療などに関するガイドラインが記載。
24	HIV感染	CDC/MMWR Weekly 2005; 54(46): 1177	2003年、カンボジアBanteay Meanchey県保健当局は、CDCおよび米Agency for International Development (USAID)と共同で、HIV感染者の結核健診増進のためのパイロット計画を開始した。本計画の最初の14か月間のデータの、CDCによる分析と評価結果についての概要報告。
25	HIV感染	CDC/MMWR Weekly 2005; 54(46): 1188	1987年-2003年の米国における男女別のHIV感染症の年齢調整死亡率(10万人当たり)に関する情報が記載されている。1999年-2003年に、男性ではわずかながらHIV/AIDS死亡率の着実な低下がみられ、女性における死亡率には変化がみられなかった。

No.	感染症(PT)	出典	概要
26	HIV感染	CDR Weekly 2005; 15(43)	2005年9月末までの英国における新規HIV感染診断症例の感染経路、年齢、診断年、感染地域表などが記載されている。HIV診断累計総数74977件。
27	HIV感染	CDR Weekly 2005; 15(47)	世界エイズデー(12月1日)に先立って発行されたUnited Nations Programme on HIV/AIDS (UNAIDS)およびWHOによる共同報告では、世界的なHIVの流行の規模および影響が増加していることおよびこれらの傾向を反転させようとする努力における介入の重要性および可能性が強調されている。
28	HIV感染	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えると予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
29	HIV感染	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Tecknika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
30	HIV感染	NHS National Services Scotland <a href="http://www.show.scot.nhs.uk/scieh/infectious/inftransmitted.html">http://www.show.scot.nhs.uk/scieh/infectious/inftransmitted.html</a>	『Setting the Scene』(スコットランドにおける性感染症(HIV感染症を含む)―2004年、2005年11月発行)および『Mapping the Issues』(英国におけるHIV感染症および他の性感染症―2005年、2005年11月発行)が発行された。これらの報告書はウェブサイトで見ることが可能。
31	HIV感染	ProMed 2005年7月26日	情報源: Science Daily, United Press International, 7月26日。新型ヒト免疫不全ウイルス(HIV)株の感染源である患者を特定。コネチカット州Norwalkの開業医Dr. Blickは、この患者CT01は2種類の薬剤でコントロールされ安定しているため、多剤耐性株の出現と警戒された先の警報は大きすぎた可能性を指摘。
32	HIV感染	SFGate.com 2005年12月3日	中国で、HIV感染との認識がなかった男性が、2003年1月～2004年6月に15回売血を行った。HIVに感染した血液(明らかに1回も検査されていない)は、輸血を必要とした患者25名に投与された。
33	HIV感染	WHO <a href="http://www.who.int/mediacentre/news/releases/2005/unaidsw_ho/en/index.html">http://www.who.int/mediacentre/news/releases/2005/unaidsw_ho/en/index.html</a>	HIV伝播は依然として増加。流行を減速させるためより一層のHIV予防の取り組みが必要と提言。成人でのHIV感染率は、特定の国々でコンドームの使用増加などの感染予防行動の変化が重要な役割を果たして低減。ケニア、ジンバブエ、カリブ海地域の数カ国は、ここ数年HIV感染率低減。2005年新規感染症例は500万例。全世界では推定4030万人がHIV感染者として生活。東欧・中央アジア・東アジア、サハラ以南のアフリカで増加。
34	HIV感染	カナダ Public Health Agency <a href="http://www.phac-aspc.gc.ca/publicat/aids-sida/haic-vsac0605/pdf/haic-vsac0605.pdf">http://www.phac-aspc.gc.ca/publicat/aids-sida/haic-vsac0605/pdf/haic-vsac0605.pdf</a>	カナダにおけるHIV/AIDS関連統計などについて記載。また暴露カテゴリー別(血液/血液製剤暴露等)のHIV検査陽性報告数および割合などについて記載。

No.	感染症(PT)	出典	概要
35	HIV感染	カナダ Public Health Agency 2005年9月30日 <a href="http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb3905_e.html">http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb3905_e.html</a>	LA郡Department of Health Servicesによる調査の結果から、成人用映画業界従事者における職業的に獲得したHIV感染症例4例について記載。成人用映画業界におけるHIVおよびSTD予防措置の改善の必要性を強調。
36	HIV感染	英国保健省 Publications 2005年7月28日	1998年に発行したガイダンスの差し替えおよび患者への告知に関する最新のアドバイス。HIV感染のリスクの現在の評価、血液媒介ウイルス感染症管理および暴露傾向にある処置に関する一般原則などが掲載。
37	HIV感染	財団法人血液製剤調査機構News (海外編) 2005年7月29日	2005年7月27日、FDAは「HIV-1とHCVのためのNAT:検査、製剤の処置および供血禁止と再開」と題する業界向けガイダンス(案)を発表。
38	HIV感染	朝鮮日報 2005年9月6日	韓国でHIV陽性ドナーの血液が輸血やアルブミン・グロブリンの製造(現在両方とも市場にある)に利用。政府当局は韓国赤十字は問題に気づいていながら厚生省に未報告。公衆は可能性のある危険について通知されていないと述べた。
39	HIV感染	CDR Weekly 2005; 15(51)	2004年は全献血血液につきHIV抗体、C型肝炎抗体、ヒトT細胞白血病ウイルス抗体、B型肝炎ウイルス表面抗原(HBsAg)、HCV RNA、梅毒抗体に対する検査実施。一部の血液はB型肝炎コア抗原に対する抗体検査なども実施。2004年に、英イングランド・ウェールズの献血のうち227件がウイルス感染マーカー陽性。45%がHCV関連、42%がHBV関連。イングランド・ウェールズの献血血液におけるHbsAg、抗HIV抗体の年間感染率は安定し、ヨーロッパに比べると低い。
40	HIV感染、C型肝炎	FDA/CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月、米国食品薬品局(FDA)生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合は永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリーする。
41	HIV感染、C型肝炎	オーストラリア Department of Health and Ageing/ TGA 2006年1月3日 <a href="http://www.tga.gov.au/docs/pdf/tgo/tgo74.pdf">http://www.tga.gov.au/docs/pdf/tgo/tgo74.pdf</a>	Therapeutic Goods Order No. 74: 血液成分に関する基準。血液・血液成分は1980年-1996年に英国に累計6か月以上滞在または居住者をドナーとした血液・血液成分を製造してはいけない、血液・血液成分はNATを用いた検査でHIV-1、HCV陰性である血液からのみ製造すること等などについて記載。
42	HIV感染、C型肝炎	オーストラリア Department of Health and Ageing/ TGA/TGO No. 73 2005年6月8日 <a href="http://www.tga.gov.au/docs/html/tgo/tgo73.htm">http://www.tga.gov.au/docs/html/tgo/tgo73.htm</a>	臍帯血由来の造血前駆細胞は国際基準(第2版、2001年7月付け)の要件に合致している必要があること、母親の血液サンプルが臍帯血提供直後と180日後以降HIV-1とHCV陰性である場合に製造可。
43	HTLV	AABB Weekly Report 2005; 11(35)	英国国立血液サービス(NBS)は2002年にHTLVの検査を開始した。米国はそれより何年も前からHTLVの検査を行っていた。
44	HTLV	AIDS Res Hum Retroviruses 2005; 21: 521-526	ブラジル都市内の一家族でのHTLV-2の水平感染及び垂直感染について。初発症例は献血血液のスクリーニングで検出された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
45	HTLV	血液製剤調査機構 Today's News (海外編) 2005年9月	1995年HTLV-1を含む輸血を受けた英国の手術患者が75万ポンドを支給された。国立血液サービス(NBS)は2002年にHTLVの検査を開始し、米国はその数年前から検査実施。手術後、HTLV関連脊髄障害が発現し、症状により離職。
46	HTLV	臨床血液 2005; 46: 952	2004年2月、ATLリンパ腫型再発期にATLA陽性HLA一致同胞より骨髄移植を施行された後、同年7月にATL急性型を発症した男性の報告事例。ATL細胞はドナー由来であった。
47	ウエストナイルウイルス	CDC <a href="http://www.cdc.gov/nccidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm">http://www.cdc.gov/nccidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm</a>	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。
48	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
49	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649	2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。
50	ウエストナイルウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry June 2005 <a href="http://www.fda.gov/cber/gdlns/wnvguid.pdf">http://www.fda.gov/cber/gdlns/wnvguid.pdf</a>	2005年6月米国食品薬品局(FDA)生物製剤評価研究センター(CBER)は、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づく成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案した。
53	BSE	FDA News; P05-68, 2005年10月4日	2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。
54	BSE	ProMed 20050729-0030	米国で3例目のBSE発生疑いの牛が発見。EUではTSE規制の見直し。日本での発生原因についての発表内容。
55	BSE	ProMed 20050804-0120	8月3日、アイオワ州のU.S. Department of Agriculture's National Veterinary Services Laboratories (NVSL)は、7月27日の中間検査の結果、BSE陰性であると発表。英国 WeybridgeにあるVeterinary Laboratories Agencyでの検査結果も陰性。検査続行中。
56	BSE	USDA Statement Release No.0336.05 2005年8月30日 <a href="http://usda.gov">http://usda.gov</a>	米農務省(USDA)の動物衛生検査部およびFDAは2005年6月にBSE検査で陽性となったウシに関する調査を終了した。調査期間中、このウシが飼育されていた同群のウシ計67頭をBSE検査したが全て陰性であった。現在までに米国では過去14ヶ月間に45万頭以上が検査され、2頭のみがBSE陽性と確認された。
57	BSE	Pro MED 20060218-0030	クロアチア政府は国内初となるBSE症例を確認したと明らかにした。確定診断のため、ウシ(5歳)の脳検体が英国の研究所に送られた。
58	BSE	ProMed 20051120-0050	フォークランド諸島で、異型スクレイピー(atypical scrapie)と呼ばれる病型と確認された、初のスクレイピー症例が発生。

No.	感染症(PT)	出典	概要
59	BSE	USDA Statement 2005年6月29日	米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。
60	BSE	Vet Rec 2005; 157: 206	6月齢の雌ヒツジ30頭にBSEウシの脳5gを経口投与し、6ヶ月後に、同月齢のBSE脳非投与のヒツジ20頭と、一つの群れとして生活させ、自然交配させ、出産させた。投与群では30頭のうち24頭が投与後655日から1056日の間に死亡した。2003年に生まれた2頭の子羊はBSEで死亡した。子羊の母親2頭は臨床症状を呈した。ヒツジにおいてBSEが、子宮内や出産前後に伝播しうることが初めて確認された。
61	BSE	オーストラリア Department of Health and Ageing/TGA 2005 年9月21日 <a href="http://www.tga.gov.au/docs/pdf/euguide/emea/041001rev2.pdf">http://www.tga.gov.au/docs/pdf/euguide/emea/041001rev2.pdf</a>	導入されるEUガイドライン(ヒトおよび動物用医薬品を介した伝達性海綿状脳症(TSE)原因物質のリスクを最小限にするためのガイダンス覚書(EMEA/410/01 Rev.2))が追加され、更新されている。
62	クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005; 11(41)	2005年7月、英国のCJD incident Panelによると英国の輸血を受けた約50名がvCJDに曝露した可能性があり、まもなく医師の診断を受けるよう通知される予定。
63	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(45)	2004年9月～2005年2月に、手術用具を介してCJDへ曝露した可能性のある事例38件がCJD Incidents Panelに報告されたこと、National Anonymous Tonsil Archiveなどについて記載されている。
64	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	CJD Incidents Panel(CJD事例委員会)の年次報告第4版、およびフレームワーク文書発表。2003年9月～2004年8月に54件が報告。20件は輸血が関係。医療行為を介したCJDへの曝露の可能性の管理に関する委員会のアドバイスの基準を記述している。
65	クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 39(2005/32): 181	1995年～2005年7月29日までの英国におけるクロイツフェルト病の確定例および可能性例の調査表:vCJD確定例死亡総数は150例。
66	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2005; 86: 2393-2399	新規洗浄処理、ラジオ波ガスープラズマ法によりヒトにおける全プリオン疾患の伝播機会を減少させる可能性が示された。
67	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
68	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed 20051109-0040	英国海綿状脳症諮問委員会10月19日声明文。「BSEがヒトの伝染性海綿状脳症から由来したという仮説」に関する議論の要約。ProNAS掲載の新しいスクレイビー病原体は、耐性プリオン蛋白(PrP)遺伝子型のヒツジ個体に感染しうると論文の紹介。News@nature.com, 11月3日号に、ヒツジの炎症のある乳腺には、異常プリオン蛋白が確認された報告意義を解説した記事など。

No.	感染症(PT)	出典	概要
69	クロイツフェルト・ヤコブ病	カナダ Public Health Agency http://www.phac-aspc.gc.ca/hcai-iamss/cjd-mcj/cjdss-ssmcj/stats_e.html	2005年11月1日現在, CJD-SSに報告されたCJD疑い症例照会数(2005年:55例), CJD死亡数(2005年:散发性2例, 計2例, 1994年~2005年:計259例), 州ごとのCJD症例数, CJD-SSに報告されたCJDの死亡率。
70	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0310 2005年9月5日	2005年9月2日現在の2005年のCJD診断確定例および可能性例の総死亡例数-41(散发例35, 医原性1, 家族性2, GSS(Gerstmann-Straussler-Scheinker syndrome)1, vCJD2)
71	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Releases 2005/0389 2005年11月7日	2005年11月4日現在のクロイツフェルト・ヤコブ病月間統計:vCJD確定例および可能性例の総数(死亡例および生存例):158例。
72	クロイツフェルト・ヤコブ病	血液製剤調査機構 Today's News(海外編) 2005年8月	Idaho Department of Health and Welfareは自然発生したクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)症例と思われるクラスターの調査中。
73	クロイツフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042	ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると, 感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから, LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同等とされた。
74	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に, 54例が報告され, そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し, 20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し, 特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。
75	クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2005年10月11日 http://www.fda.gov/cber/advisory/tse/tse1005.htm	2005年10月31日開催予定の伝達性海綿状脳症(TSE)諮問委員会の議題などについて記載。
76	クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2005年10月31日 http://www.fda.gov/cber/advisory/tse/tse1005.htm	米FDAのTSE諮問委員会は10月31日に会合を開き, ヒト血漿製剤における変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)のリスク評価について議論した。委員会はTSE感染のリスク評価に役立つ研究に関する採決を行い, 感染性プリオン濾過に用いられるフィルターの血液製剤での異常プリオンタンパクの除去はできるが, 十分ではないと考えられ, FDAの表示案を承認した。
77	クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2005; 39: 189	英国保健省はvCJD罹患率を割り出すために, 保存されている虫垂および扁桃検体を検査した。その結果, vCJD罹患率は10-30歳で100万人当たり46-692例であると見積られた。この値は臨床例からの推定値よりはるかに大きかった。
78	クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2005; 39: 198	「TSEロードマップ」(各種の伝達性海綿状脳症(TSEs)が食物連鎖に入るのを防ぐために計画された規制の将来的に起こりうる改正の概要を記載)が欧州委員会によって発表された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
79	クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。
80	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed 20050906-0090	1) 英国保健省vCJD病月例統計—2005年9月2日。2) エジンバラ大学の研究チームが手術器具から異常プリオンを除去するより効果的な方法を開発。3) スペイン保健省はスペインでのvCJD患者発見を報告した。4) BSEの根本的な感染源として、70年代に南アジアから輸入された肥料および飼料用の原料の一部に、プリオン病に感染していた遺体の人骨やヒトの組織が含まれていた可能性。BSEの複数の専門家からは疑念提示。
81	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED 20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
82	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Releases 2005/0337 2005年10月3日	死亡症例数、生存中のvCJD可能性症例数、vCJD確定例および可能性例の総数(死亡例および生存例)。9月30日現在の2005年のCJD総死亡例数—48。
83	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Gateway reference 5238 2005年7月 <a href="http://www.dh.gov.uk/assetRoot/04/11/53/12/04115312.pdf">http://www.dh.gov.uk/assetRoot/04/11/53/12/04115312.pdf</a>	ドナーが変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の潜伏期にある場合に、血液および血液製剤のレシピエントが感染しているリスクを評価する現在の分析法についての専門家向け文書が掲載されている。
84	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0256 2005年7月20日	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病を後で発症した3名に対し供血した約100名に、献血、組織および臓器提供を行わず、手術などの場合に特別な措置を講ずるよう医療専門家に通知することを要請した。これにより伝播リスクを低減する。
85	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 <a href="http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/">http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/</a>	英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。
86	インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5～6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
87	インフルエンザ	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第27週	インフルエンザの定点医療機関からの発生報告数は、第20週以降減少が続いていたが、第27週になって712(定点あたり報告数0.15)と増加した。
88	インフルエンザ	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第35週	インフルエンザの定点医療機関からの定点あたりの発生報告数は、0.024と2005年第1週以降では最小を記録している。例年第35～36週前後に最低となることが多く、本年も例年と同様に発生数が最も減少する時期と考えられる。しかしながら、2005年第35週の定点あたり報告数は、過去5年間の同時期と比較すると最も高い値となっている。